

みなとみらい 水と緑の生き物 ガイドブック

みなとみらい水と緑の生き物ガイドブック

企画・発行：一般社団法人横浜みなとみらい 21

調査・制作：有限会社ゼフィルス

写真・構成：村石健一

協力：みなとみらい 21 新港地区緑のまちづくり協議会

みなとみらい 21 中央地区緑のまちづくり協議会

みなとみらい 21 横浜駅東口・中央地区緑のまちづくり協議会



※無断転載・複写・複製を禁じます。

※本冊子内にある写真は、みなとみらい 21 地区内で撮影されたものです。

(P25「豆知識」内のメジロ、P32①ミサゴを除く)

※製作費の一部は、横浜市の「地域緑のまちづくり事業」による補助を受けています。

発行 2016 (平成 28) 年 3 月



INDEX

みなとみらい水と緑の生き物ガイドブック

自然散策コース..... 2-11

みなとみらい全体図	2
おすすめエリア 1 高島水際線公園周辺	4
おすすめエリア 2 臨港パーク	6
おすすめエリア 3 汽車道周辺	8
おすすめエリア 4 赤レンガパーク周辺	10

四季で感じる みなとみらい 12-15

春 / 夏 / 秋 / 冬

みなとみらいの生き物..... 16-37

主な樹木とその特徴	16
街路樹の一年	18
桜並木の一年	19
主な街路樹	20
樹木を利用する生き物	21
草地の生き物	24
花に来る昆虫	26
野草	28
水辺に来る鳥	30
貴重な鳥と繁殖	32
みなとみらいのスズメの暮らし	34
海辺の生き物	36

みなとみらい 21 地区は埋立開始から 30 数年が経ち、道路・公園・ビルの周囲などの緑化によって、様々な種類の緑が増え、それぞれが成長を続けています。成長した植物に木の実がなり、それを餌とする昆虫や鳥が集まるなど、生物の多様性が感じられるようになってきました。そこで一年を通して生物の調査を行ったところ、植物 244 種、ほ乳類 1 種、鳥類 50 種、は虫類 3 種、昆虫類 105 種が確認されました。この調査を基に作成したのが、この「みなとみらい水と緑の生き物ガイドブック」です。

みなさんも、このガイドブックを片手に地区内を散策しながら、学んだり、楽しんだりしつつ、どうしたらもっと生物が増やせるのか、みらいに想いを馳せてみてはいかがでしょうか。



みなとみらい全体図

自然散策におすすめな場所をエリアに分けて、それぞれの場所の特徴と観察できる生き物たちを紹介しています。

図中の●●●は駅やエリアから、他のエリアへの最短コースを示しています



アクセス & おすすめルート



横浜駅東口、新高島駅から歩くルートです。臨港パークへは、南西側の出入り口から赤い点線をたどって、とちのき通りに合流したら海岸方向へ向かいます。広い園内を散策したあとは、けやき通りをみなとみらい駅へ帰るコースです。



人工干潟

水辺と陸地を緩やかにつなぐ貴重な環境となっています。水辺に生息する生き物を育てています。



コサギ 水辺の鳥は [P.30](#)

コチドリ
貴重な鳥は
[P.32](#)



高島水際線公園は、帷子川の河口域に位置し、親水性と景観を活かした開放感ある公園です。また、みなとみらい大通りから国道1号までは、水際線プロムナードが整備されています。冬場には水辺の鳥でにぎわいます。



運河

冬期には水面上や護岸沿いで、水鳥たちが羽を休めている姿を観察することができます。



キンクロハジロ(上)とユリカモメ(下)
水辺の鳥は [P.30](#)



草地

草地環境に典型的な植物がまとまり、草地に特徴的な鳥や昆虫を観察できます。



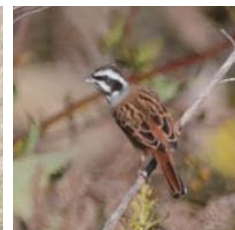
ヤバズノエンドウ
野草は [P.28](#)



外来の植物は
[P.29](#)
シロツメクサ(左)とヒロロードモウズイカ(右)



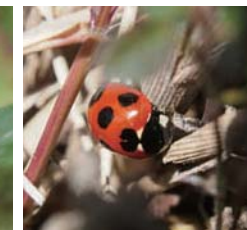
チョウゲンボウ



ホオジロ



ショウリョウバッタ



ナナホシテントウ
草地の昆虫は [P.25](#)

草地の鳥は [P.24](#)



アクセス & おすすめルート

高島水際線公園周辺 約10分 → 臨港パーク 約8分 → みなとみらい駅

臨港パークは、湾曲した水際線に沿って整備された地区内最大の緑地です。広大な芝生広場や親水護岸から横浜港が一望でき、イベントなどにも活用されています。みなとみらいで唯一樹林といえる環境があります。また海に面しているので、冬の時期には海上にカモの群れが飛来します。時には珍しい水鳥が現れることもあります。



樹林

クスノキやケヤキなどが植栽された樹林があり、樹林環境に典型的な動物が観察できます。



アオスジアゲハ

アブラゼミの抜け殻



ヒヨドリ

樹林の生き物は [P.21](#)

スズガモの群れ



海辺



カンムリカイツブリ

水辺の鳥は [P.30](#)

開けたプロムナードからは海上の様子もよく見ることができます。冬に飛来する水鳥の仲間は、岸近くに寄って来ることもあり、臨港パーク内の汐入の池に来る種類もいます。



エノキ 樹木は [P.16](#)



キジバト



ムクドリ

みなとみらいで一番広い芝生広場で、人がよく利用する緑地です。人の少ない時が、食べものを探しに出てくる鳥と出会うチャンスです。

スズメの集まるオブジェ



スズメの暮らしは

[P.34](#)

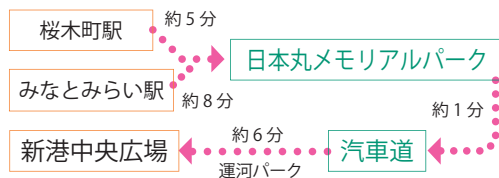
草地



ツグミ

草地の鳥は [P.24](#)

アクセス & おすすめルート



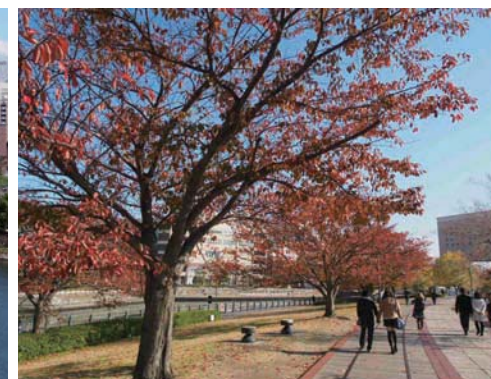
桜木町駅、みなとみらい駅からアクセスします。
日本丸メモリアルパークから汽船道を経由して新
港中央広場に向うコースです。

日本丸メモリアルパークには、水
辺に親しめる芝生広場があります。
また赤レンガ倉庫へつながる緑の
ネットワークとして、鉄道跡地や
トラス橋などの歴史的資産を活か
した汽船道、運河パーク、水際線の
プロムナードが整備されています。



汽船道

遊歩道に沿ってサクラ類が植栽され、法面では風
や鳥に運ばれて来たと思われる植物が見られます。



ソメイヨシノ並木

P.19

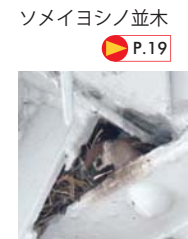
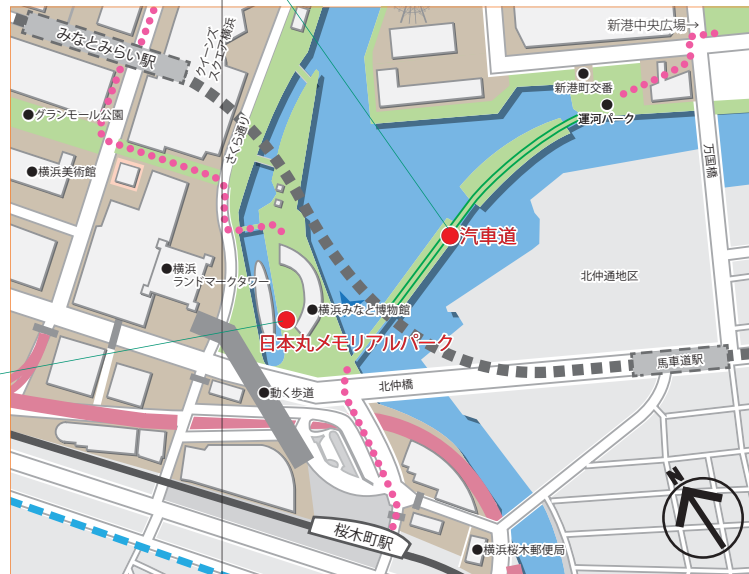


ドクダミ(上)とキョウリグサ(下) 野草は P.28



日本丸メモリアルパーク

建物やパークの端などには人があまり立ち入
らない植栽場所があり、ほかでは見られない
植物を観察することができます。



スズメの集まる鉄橋
スズメの暮らしは

P.34



オオセグロカモメ
ハジロカイツブリ

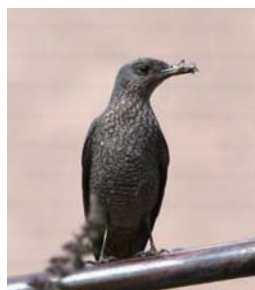
水辺の鳥は

P.30



芝生に飛来したユリカモメ

水辺の鳥は P.30



イノヒドリ成鳥(左)幼鳥(右)



繁殖する鳥は P.33



イチモンジセセリ

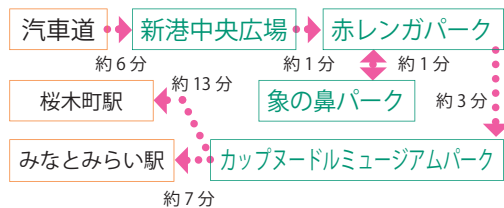
花に来る昆虫は P.26

ネジバナ

野草は P.28



アクセス & おすすめルート



新港中央広場から他のおすすめエリアまでは、それほど離れていません。また赤レンガパークから汽車道に戻っても、カップヌードルミュージアムパークを経由しても時間はさほど変わりません。

花に来る昆虫は

▶ P.26

キタテハ(右)
ウラナミシジミ(右下)
モンシロチョウ(下)



新港中央広場

花壇の花は人々の目を楽しませるだけでなく、昆虫たちにとっては貴重な食料源になっています。



キムネクマバチ(上)、ヒゲナガハナバチの仲間(左)、セイヨウミツバチ(下)

赤レンガパーク周辺は、赤レンガ倉庫や旧横浜税関事務所跡の遺構、旧横浜港(よこはまみなと)駅のプラットホームを保存・活用するなど、歴史と景観を活かした緑地となっています。新港中央広場は赤レンガ倉庫と汽車道をつなぐ位置にあり、一年を通じて様々な花が植えられ、道行く人の目を楽しませています。



ミヤコグサ(上)、ホトケノザ(下)

野草は ▶ P.28



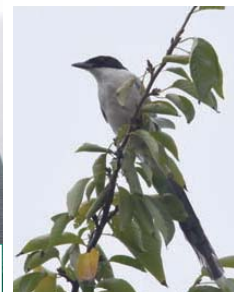
赤レンガパーク

歴史的な建造物が保存されているとともに、ほかの場所では見られない在来の植物も残っています。



カップヌードルミュージアムパーク

ソメイヨシノの桜並木が充実しています。開花時期には大勢の人でにぎわいます。▶ P.19



オナガ

繁殖する鳥は ▶ P.33



タチツボスミレ

野草は ▶ P.28



象の鼻パーク

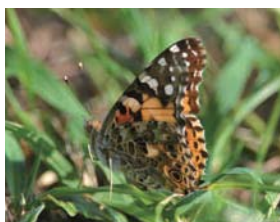
明治期の姿に復元した防波堤や港、みなとみらい全域を見渡すことのできる緑地です。



四季で感じる
みなとみらい



春

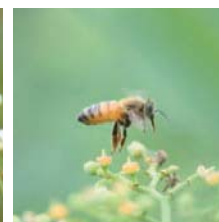
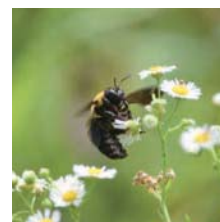


気温の上昇とともに多くの生き物が動き出し、桜の花が開きだすと、たくさんの人でにぎわいます。みなとみらいが活気づく季節です。



夏

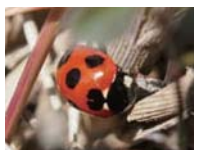
生き物たちは朝夕の涼しい時間に活発に動きます。真夏の日差しを避けるように日中は静かにしています。





秋

空が澄み、色づいた樹々とのコントラストが美しい季節です。夏鳥が南に去り、冬鳥が飛来するようになると、多くの生き物たちが冬越しの準備を始めます。



落葉樹が葉を落とすと本格的な冬の訪れを感じます。冬鳥は寒さを感じさせないで元気に活動しています。昆虫や草花たちは寒さに耐えて静かに春の訪れを待っているようです。



冬

みなとみらいの生き物

ここからは緑地や水辺で見られる様々な生き物を紹介します。

主な樹木とその特徴



■ ケヤキ 場所：(臨)(赤)けやき通り



■ エノキ 場所：(臨)

樹木には、一定の時期に葉を落とす落葉樹と年間を通して葉をつけている常緑樹があります。ケヤキとエノキは落葉樹です。常緑の樹林は暗く、落葉の樹林は明るいのも特徴です。



落葉したケヤキ(左)とエノキ(右)

ケヤキは幹から扇形に枝を広げた姿が特徴で、エノキは枝分かれして横に広がります。どちらも高さ 20m ほどになります。



ケヤキ(左)とエノキ(右)の樹皮。どちらも滑らかだが、ケヤキは成長すると皮が鱗状にはがれる



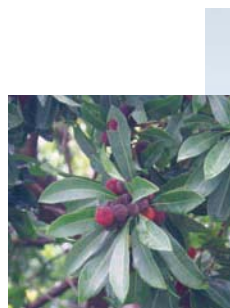
■ クスノキ 場所：(臨)(赤)(汽)



クスノキ(左)の樹皮は縦に裂け目が入る。タブノキ(右)は滑らかだが、古木になると縦に割れ目ができる



クスノキ(左)とタブノキ(右)の実。タブノキも黒くなる



ヤマモモの実

■ ヤマモモ (臨)(汽)

常緑樹で大気汚染に強く、公園や街路に植えられています。果実の時期の6月頃には、落ちた実が地面に山積みになっている場所もあります。実は甘酸っぱく食用になります。



■ タブノキ 場所：(臨)(赤)

クスノキとタブノキは常緑樹です。クスノキは古くから神社などに植栽され馴染みの深い樹木です。タブノキは関東では海岸付近に多いことが特徴です。どちらも高さ 20m 以上になり、天然記念物に指定されている巨木が各地に生育しています。

クスノキの葉
卵形で光沢があり、
両端がとがる

タブノキの葉
革質で表面に
光沢がある



■ ハゼノキ (汽)

紅葉が美しく、観賞用に植栽されていますが、肌の弱い人はかぶれることもあるので注意が必要です。汽道に大きな目立つ株があります。



街路樹の一年

けやき通りは、その名の通りにケヤキの並木になっています。一年の移り変わりを定点から観察してみました。



1月頃 冬の装いのケヤキ。3月下旬まで葉のない姿



4月頃 上旬頃から一斉に芽吹き、新緑がまぶしくなった



6月頃 5月には葉がすっかり生い茂った



8月頃 4～9月頃まで緑の濃い状態が続いた



10月頃 葉が色つき始めた



11月頃 紅葉が真っ盛り。時期は短く、間もなく落葉した

一年を通して見ると、葉が繁っている時期が半年、冬の準備に約一月、落葉の時期は約四か月ほど。街路樹を観察しているだけでも季節の移り変わりの様子がわかります。

桜並木の一年

華やかなソメイヨシノも人気の高い樹木です。カップヌードルミュージアムパークの並木を定点で観察しました。



1月頃 葉がなく明るい林



3月頃 満開になった。年にもよるが、花の時期は約2週間



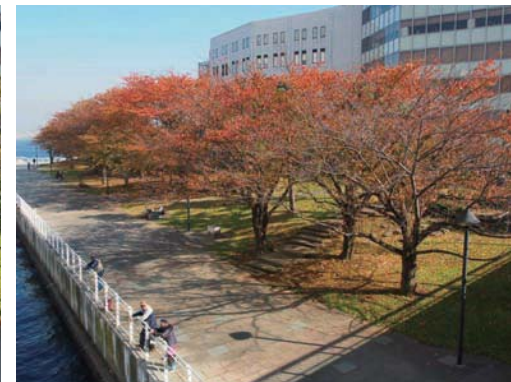
5月頃 花の咲いた後にすぐ芽吹き、葉が生い茂った



8月頃 ケヤキ同様に緑の濃い時期は4～9月頃まで



10月頃 葉が色づいた。潮風の影響が一部落葉していた



11月頃 紅葉を迎えた。すぐに落葉し、3月までは冬の装い

桜は、ここに紹介した並木以外でも、自動車道、赤レンガパークなどで見られます。臨港パークでは、ソメイヨシノ以外にも様々な品種の桜の花を見ることができます。

主な街路樹



■ ベニバナトチノキ

セイヨウトチノキとアカバナトチノキの交雑品種で5～6月にピンク色の花が見られます。



■ ソメイヨシノ

まず花が咲き、その後に葉が芽吹きます。花や蜜は鳥や昆虫などの食べ物になります。



■ イチョウ

雌雄別株で、銀杏のつかない雄株が街路樹として多く植えられています。実の時期は10～11月。



■ プラタナスの仲間

スズカケノキ属総称のプラタナスという名前で親しまれ、植栽樹として人気があります。

豆知識

紅葉ではないのに 葉が赤い秘密

紅葉でもないのに赤い葉を見ることがあります。アカメガシワもそのひとつで、赤い葉が芽吹きます。その秘密は葉の表面に密生した毛にあります。



セロテープに付いたアカメガシワの赤い毛。芽吹いた葉には赤い毛が密に生えています。



樹木を利用する生き物



ユズリハの実を食べに来たヒヨドリ(左)と未熟な青い実(右)

■ 実のなる樹と鳥

樹木は、実が鳥に食べられることで種子をほかの場所へ運んでもらい、自ら動けない代わりに分布を広げています。実のなる樹のほとんどは、臨港パークで見られます。



イヌツゲの実(左)を食べに来たヒヨドリ(上)



12/22 (左)と翌年1/9 (右)のトキワサンザシの実。約二週間でなくなった



アキニレの実を食べるスズメ



サクラ類の実を食べるカワラヒワ

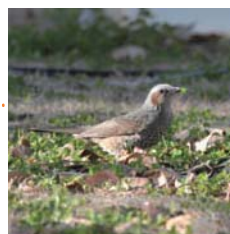


足に実をはさんで食べるシジュウカラ

豆知識

何でも食べる ヒヨドリ

みなとみらいでは、越冬のために移動してきたヒヨドリが多く見られます。食べものが少ない時期は、多種多様なものを食べて冬越しします。



シロツメクサの葉を食べる(左)。梅の花の蜜を吸う(中央)。アブ類を捕る(右)

樹木を利用する生き物



臨港パークのクスノキに巣を作るハシブトガラス。一羽が巣材の枝を運んできた。もう一羽は巣内を整えている。巣作りは3月頃から始まる



アオスジアゲハの成虫(上)はクスノキやタブノキに卵を産み、幼虫(右)は葉を食べて成長する。幼虫は見つからないが、成虫は4～10月頃にどこでも見ることができる



繁殖する生き物

鳥類は樹木に巣を作り、アオスジアゲハは樹木の葉を食べ物として、セミの仲間は地中で樹液を吸って繁殖します。



樹木の多いところで見られたキジバト(左)とシジウカラ(中央)、オナガ(右)の幼鳥。この3種類は基本的に樹木で巣作りを行うが、シジウカラは巣箱や人工物の隙間も利用することがある。33ページでも補足的に説明している

植物を利用する 変わりダネの生き物

右の二つはアブラムシやハエの幼虫などが植物の葉や芽に寄生することによってできた異常に変化した部分です。こぶ状になるので虫こぶと呼ばれています。



エゴノネコアシツキ(左)
ヨモギクキワタフシ(上)

みなとみらいのセミ

横浜市内で確認されているセミは6種ですが、ヒグラシを除く5種をみなとみらいでは観察できます。全てが見られるのは臨港パークですが、クマゼミ、アブラゼミは樹木があれば、どのエリアでも観察することができます。

クマゼミ 時期：7～9月

アブラゼミ 時期：7～10月



ニイニゼミ 時期：6～9月



ミンミンゼミ 時期：7～10月



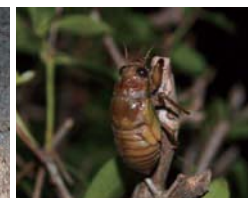
ツクツクボウシ 時期：7～10月

アブラゼミの羽化

臨港パークでは、夏の夜にアブラゼミの羽化を観察することができます。日没後に地面から出てきた幼虫がセミになる光景は神秘的です。



幼虫が出てきた穴の数々



枝に登ってきた幼虫



お腹の先だけでぶら下がる



腹筋で上体を起こす



お腹が抜けた瞬間



頭を上にはぶら下がる



左は普段は地中にいるコガネムシの仲間の幼虫。右は樹林内で休むシオカラトンボ。夜は昼間とは違う生き物たちの姿を観察することができる



羽が伸びてきてセミらしくなってきた。羽化開始からここまで約1時間半。身体が出てからだいたい5～6分くらいの状態。色づくにはまだ2時間ほどかかる

草地の生き物



ヒバリ 時期：3～4月



モズ 時期：冬期



トビ 時期：通年

■ 草地を利用する鳥

みなとみらいの緑地の多くは芝生広場になっています。芝生草地はハクセイキレイ、ツグミ、ジョウビタキなどが利用しています。モズは草地のほか、樹林も利用します。トビは草地の上空で、食べものを探しています。ホオジロ、タヒバリなども高島水際線公園付近にいますが、観察例はそれほど多くありません。



チョウゲンボウ 時期：通年

畑地や河川敷などで小鳥や昆虫などの小動物を捕らえて暮らす、ハヤブサ目ハヤブサ科の小型の猛きん類。空中で静止して地面にいる獲物を狙う行動が特徴。建物のベランダや橋脚などの人工物で繁殖する例が近年では多くなっている。主に高島水際線公園付近で観察できるが、いつも見られるとは限らない



獲物を探して上空で静止する



捕えた獲物を地面で食べる



ハクセイキレイ 時期：通年



ムクドリ 時期：通年



ツグミ 時期：冬～春期



ジョウビタキ 時期：冬期



ホオジロ 時期：秋期(稀)



タヒバリ 時期：冬期(稀)

■ バッタの仲間

バッタの仲間は草地の典型的な昆虫で、主に5種類を観察することができます。観察場所としては、高島水際線公園と新港中央広場の花壇付近がおすすめです。



トノサマバッタ 時期：7～11月
オンブバッタ 時期：6～11月



ショウリョウバッタ 時期：8～11月



イボバッタ 時期：7～11月



ツチイナゴ 時期：5～12月



ナナホシテントウのサナギ(上)と羽化直後の個体(右)



同じ種類で模様の違うナミテントウ(左)。下は幼虫と卵と食べものとなるアブラムシの仲間

■ テントウムシの仲間

主に2種類が見られます。高島水際線公園では5月頃に幼虫、サナギ、成虫が一度に観察することができます。上の写真は同公園のススキの根元で越冬していた成虫です。



豆知識

生き物たちの生息場所を広げる方法

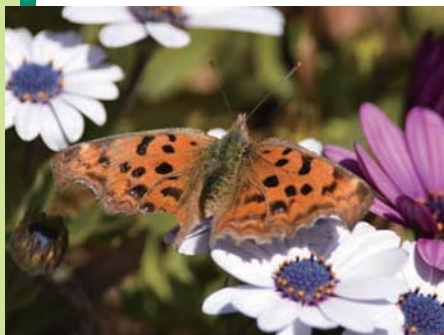
鳥にとって水場は大切な生息場所となっています。水場の少ないみなとみらいでは、水飲み場を利用する野鳥も少なくありません。お皿に水を張っただけの簡単な水場でも鳥は利用しにやってきます。



水飲み場に来たインコヨドリ



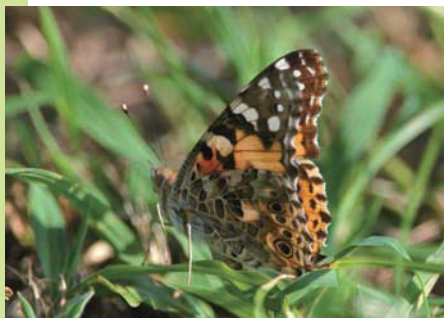
簡単な水場で水浴びするメジロ



キタテハ 時期：3～11月



ツマグロヒヨウモン 時期：4～11月



ヒメアカタテハ(左) 時期：4～11月
ヤマトシジミのペア(下) 時期：3～11月



■ チョウの仲間

新港中央広場の花壇では、紹介しているほとんどのチョウを見ることができます。春先は数が少ないですが、夏過ぎ頃から数も増えて観察がしやすくなります。花の咲いているところであれば、広場の花壇以外でも観察する機会があります。



ウラナシジミ 時期：6月



ツバメシジミ 時期：4～10月



モンシロチョウ 時期：3～11月



アゲハ 時期：4～10月

花 に 来 る 昆 虫



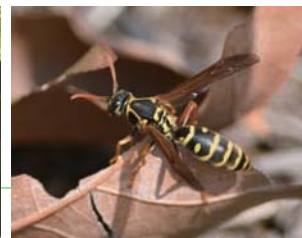
セイヨウミツバチ (左上) 時期：3～11月
キムネクマバチ (左下) 時期：3～11月
ヒゲナガハナバチの仲間 (右上) 時期：3～11月



■ ミツバチの仲間

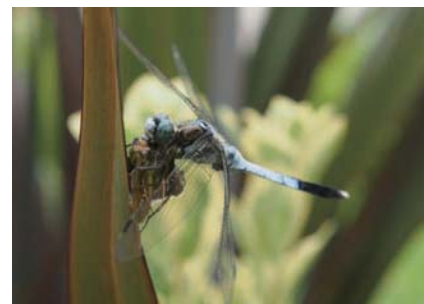
■ 花にいる昆虫を狙う昆虫

セグロアシナガバチ(左) 時期：3～11月
フタモンアシナガバチ(右) 時期：3～11月



狙われるイチモンジセセリ
時期：3～11月

花を利用する種類がいる一方で、その昆虫を狙う種類もあります。シオカラトンボやアシナガバチなどの肉食昆虫の仲間です。シオカラトンボはイチモンジセセリを捕えるために花壇の側で待っています。アシナガバチは蜜も吸いますが、草花に隠れているチョウやガの幼虫も捕えます。



捕食中のシオカラトンボ 時期：3～11月

豆知識

生き物たちの生息場所を 広げる試み

花を増やすことによって、チョウの生息場所が広がります。またチョウの幼虫の食べ物である樹木を植えることで、繁殖の場所を提供することができます。日本丸メモリアルパークで試みられています。

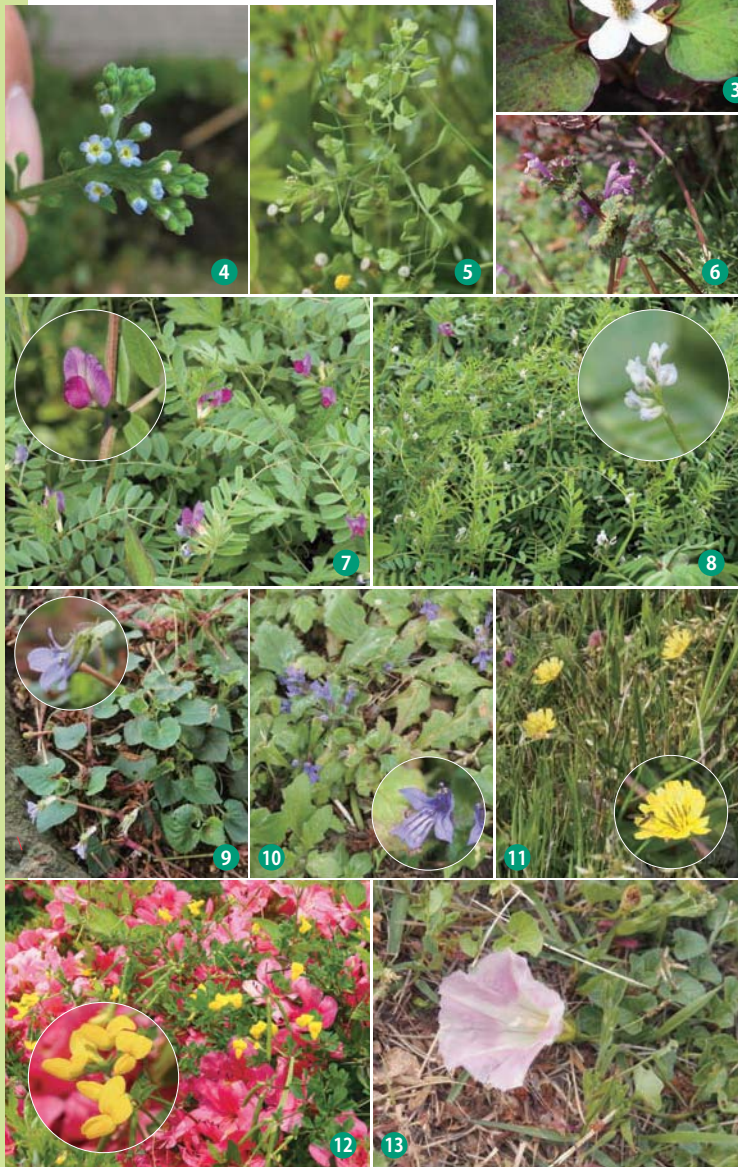


アゲハ類の幼虫の食べ物となる柑橘類の樹(右)



野草

赤レンガパーク、自動車道付近では在来の植物が多く、海岸付近の植物も観察できます。高島水際線公園、臨港パークとは、作られた時間の差によって、見られる種類の違いになっていると考えられます。



1. ヨモギ 全域
通年見られる。食用や薬用
2. ネジバナ 全域
小さくてもランの仲間。花がらせん状になる。梅雨頃。
3. ドクダミ (臨) (赤) (汽)
花は初夏。薬用に利用される
4. キュウリグサ (高) (赤) (汽)
葉をもむとキュウリの匂いをする。花は春先～夏
5. ナズナ (高) (赤) (汽)
春の七草のひとつ。別名ペンペン草で知られている
6. ホトケノザ (高) (赤) (汽)
七草と同じ名前だが食用ではない。花は春先～夏
7. ヤハズノエンドウ (高) (赤)
別名カラスノエンドウは実が黒くなることから。花は春頃
8. スズメノエンドウ (高)
ヤハズノエンドウより小型なのでついた名前。高島水際線公園付近のみで見られる
9. タチツボスミレ (赤)
早春の植物。カップヌードルミュージアムパークのみ
10. キランソウ (赤) (汽)
早春の植物。カップヌードルミュージアムパークに多い
11. イワニガナ (赤)
早春の植物。赤レンガパークの遺構で見られる
12. ミヤコグサ (赤)
草地や海岸に多い。赤レンガパークのみで見られる。花は初夏に咲く
13. ハマヒルガオ (赤)
海岸の植物。赤レンガパークのみ。花は初夏に咲く

外来の植物

江戸時代～明治に入って帰化種として定着しているもの、近年急速に生息域を拡大しているものがあります。多くの場合、在来の植物を脅かす存在となり注意が必要です。

1. ムラサキツメクサ 全域
地面を覆い尽くすような集まりになる。ヨーロッパ原産
2. シロツメクサ 全域
四葉のクローバーとして知られている。ヨーロッパ原産
3. ヤセウツボ (高)
1や2に寄生する。1や2の近くで見られる。ヨーロッパ原産
4. オオイヌノフグリ (高) (赤)
普通に見られるが実は外来種。ユーラシア、アフリカ原産
5. セイタカアワダチソウ (高)
他の植物の育成を妨害する物質を出す。北アメリカ原産
6. セイヨウタンポポ 全域
都市部で見られるタンポポはほぼ外来種。ヨーロッパ原産
7. コメツツメクサ 全域
ヨーロッパ～西アジア原産
8. ヒロードモウズイカ (高)
フェルトのような葉。日照りや乾燥に強い。ヨーロッパ原産
9. ヘラオオバコ (高)
道ばたや荒地。花の咲き方に特徴がある。ヨーロッパ原産
10. コマツヨイグサ (高)
月見草や待宵草としてなじみ深い種類の一つ。北アメリカ原産
11. ヒメジョオン 全域
お馴染みの花。北アメリカ原産
12. マツバウンラン (臨) (赤) (汽)
荒地環境に典型的な植物。北アメリカ原産



豆知識

花の咲き方の秘密

セイヨウタンポポは花の時期は茎が短く、種子ができるのと茎が伸びます。これは高いところから種子を風に乗せて飛ばすためです。またヘラオオバコの花は下から上へと順番に開いていきます。白く目立つのは雄しべで、雌しべと交互に熟することによって自家受粉を避ける仕組みとされています。



セイヨウタンポポ(左)とヘラオオバコ(右)。どちらも繁殖力強い

みなとみらいの生き物

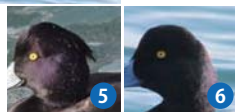
運河や海上も生き物の生活の場です。特に冬場になると水鳥の仲間が集団で飛来します。ここでは水鳥の見分け方のポイントや生活の一部を紹介します。



カモの仲間

1. **キンクロハジロ雄**（高）
成鳥は全体が黒く脇腹が白い
2. **同雌** 胸から脇腹が褐色
3. **スズガモ雄**（臨）
頭から胸が黒く身体は白い
4. **同雌** 顔の白い部分が目立つ

5. キンクロハジロは後頭部に長い飾り羽があることが特徴で、雄に比べて雌は短い。水面で食べ物を探す
6. スズガモは雌雄とも飾り羽はない。潜水で食べ物を捕る



カモの食事法

左上は逆立ちして水底の水草や種子を探す採食方法で、主に淡水域に生息するカモ類に見られる。右上はアオサ類を食べるオナガガモ。左下は潜水して魚類や貝類を捕える採食方法で、主に海水域のカモ類が行う。右下は水底で貝類を捕えたスズガモ。食べ物の取り方で生息域が推測できる

水辺に来る鳥



7. **ホシハジロ**（高）
頭が赤茶色で胸は黒い。潜水して食べ物を捕る
8. **オナガガモ**（高）（臨）
雄の尾羽が長い。水面で食べ物を探す
9. **カルガモ**（高）（臨）
くちばしが黒く先端部が黄色い。他のカモのように渡りをしない。水面で食べ物を探す



カモの休息



カモメの仲間

10. **ウミネコ** 全域 くちばしが黄色く先端に赤と黒の斑がある。尾羽に黒い帯がある。繁殖地に渡らない個体もある
11. 浅瀬でハゼの仲間を捕らえたウミネコ
12. **ユリカモメ** 全域 背中が青灰色でくちばしと足が赤い。
13. ユリカモメの成鳥は夏羽になると頭が黒くなる。芝生で羽化したばかりのコガネムシ類を捕食している。14. 水たまりで水浴びをする群れ。15. 若い個体は、くちばし、足の色が薄い。16. 若い個体の尾羽には黒い帯がある

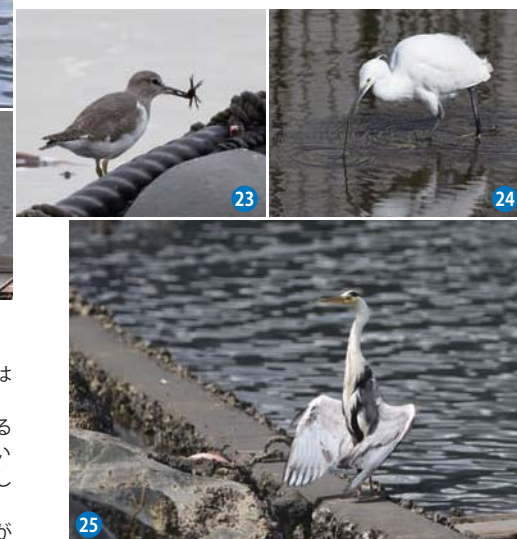


17. **セグロカモメ** 全域 背中が青灰色でくちばしは黄色く先端に赤点がある。
18. **オオセグロカモメ** 全域 セグロカモメに似るが背中が濃い。並ぶとよくわかるが単独だと難しい



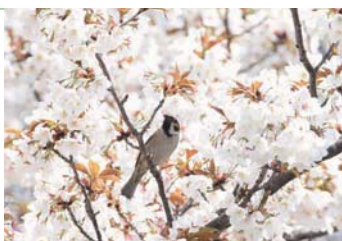
水鳥の仲間

19. **カンムリカイツブリ**（臨）（赤） カイツブリの中では最も大きい。頭頂部の冠状の羽が特徴
20. **ハジロカイツブリ**（汽） くちばしが短く上にやや反る
21. **オオバン**（高） 全体に黒く、顔先からくちばしが白い
22. **カワウ** 全域 身体は黒く背面が茶褐色で、くちばし付け根の黄色が目立つ
23. **イソシギ**（高）（臨）（汽） 水辺で腰を上下に振りながら移動する。イソガニ類を捕えて食べようとしている
24. **コサギ**（高） 足の指が黄色く、くちばしが黒い。ゴカイ類を泥の中から引っ張り出している



25. **アオサギ**（高）（臨） 大型で、目の後ろに黒い線があり、背中が灰色。翼を広げて日光浴をしている

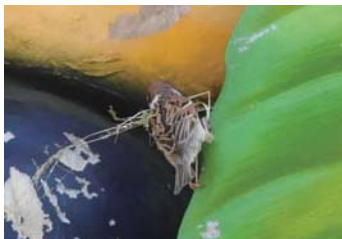
みなとみらいのスズメの暮らし



満開のサクラとともにスズメも活発に



縄張りを巡って激しく争う2羽



オブジェの隙間に巣材を運び込む



オブジェ近くの木の枝で交尾を行うペア



様々な食べ物を巣に運ぶ。青虫(左上) 昆虫(右上) 柿の種? (左下) ごはんつぶ(右下)



巣立った幼鳥が親から食べ物
をもらえる時期は短く、すぐ
に独り立ちします。子育てか
ら開放された親鳥は、暑い夏
場をしのぐため、水飲み場を
よく利用します



まかれたパンクズを食べる幼鳥



食べ物をもらおうと人に近づいて来る



ホバリングして器用に水を飲む



水飲み場はスズメにとって貴重な水場



たまり水で水浴び。シジュウカラ幼鳥も

成長した幼鳥は、秋頃から群
れになり、成鳥も混ざって大
集団になります。木の実や落
ちた種子、時には人に頼るな
ど、様々な食べ物を利用し厳
しい冬を越します



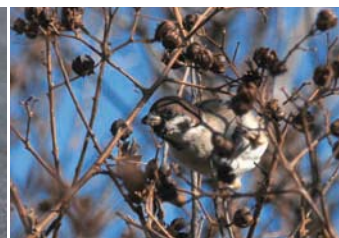
群れになり草地で食べ物を探す



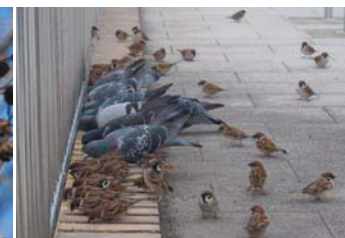
植栽の下わずかな空間で砂浴び



ヨモギの種子を食べる



サルスベリの実をついばむ



人がまいた人工飼料に集まる

豆知識

人工物を利用した巣作り

みなとみらいのスズメは様々な人工物
を利用しています。ここにあげた二か
所のほかに、店先のひさしの隙間や、駐
車場のダクトなど、実にいろいろな空間
で子育てを行っています。ヘビ類やカラ
ス類などの天敵も少なく、みなとみらい
はスズメにとって天国かもしれません



臨港パークのオブジェ (左)の隙間と汽車道の鉄橋(右)の隙間



親を待つ巣立ち直後の幼鳥



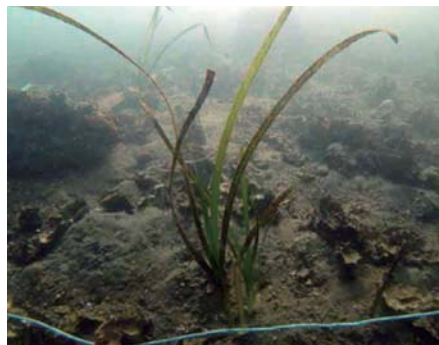
食べ物を持って来た親鳥を追う幼鳥



食べ物をもらうため必死でアピールする

海辺の生き物

河口域と海に囲まれたみなとみらいでは、海の中にも様々な生き物たちが生息しています。岸の近くに生息しているものの、陸からちょっと覗くだけではわからない海中の生き物を紹介します。



アマモ(左)
干潟や海岸の浅いところにアマモ場と呼ばれる藻場を作り、様々な生き物を育む大切な場所となる。海草の仲間
アオノリ属の一種(右上)
ほとんどの種が沿岸の浅いところに生育する。食用とされ、種類によっては養殖もされている。海藻の仲間
アオサ属の一種(右下)
アオノリと同じく浅い海に生育する。海藻の仲間

■ 海草と海藻

海草は、陸上の植物と同様に、水底に根を張り、海中で花を咲かせて種子を作る種子植物の仲間です。海藻は、胞子で増える藻類の仲間です。

■ エビ・カニの仲間

スジエビ属の一種(右)
スジエビ属のほとんどの種類は河口から浅い海に生息する
イソガニ属の一種(左)
多くは河口から浅い海の岩場や石の下に生息している。なじみ深い生き物のひとつ



きれいな海をめざす取り組み

汽車道の護岸沿いの一画で、砂を敷き、アマモを植えるなど、海の生き物たちが生息しやすい環境を作るための「実験場」を設置し、定期的に観測を行っています。「実験場」の設置前に14種類だった生き物が、設置後は、一番多いときで35種類に増えるなど、生き物の生息環境が順調に向上していることが確認されています。



海中にアマモを植える作業

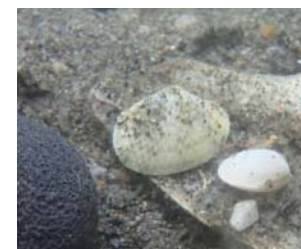


■ 魚の仲間

マハゼ(上) 春から夏は浅いところで生活し、冬場は深いところへ移動する。釣り魚としてなじみ深い
チチブ属の一種(左上) 岸壁の隙間やカキ殻などに潜むハゼの仲間
ベニツケギンボ(左中) 岩や海藻の隙間に生息する
アミメハギ(左下) 沿岸の藻場や岩場に生息する。環境や生息域によって体色が変化する



岩場で魚を捕えて飲み込むコサギ(上)と潜水して水底の小動物を食べるスズガモ(下)。鳥にとっても海の生き物は重要な食料源になっている



■ 貝の仲間

アサリ(左上)
干潟や浅い海の砂底に生息する。潮干狩りなどで人との関わりが深い貝の仲間
マガキ(右上)
食用として重要な海産物。ほとんどが養殖物で天然物は少ない



ホンビノスガイ
近年急速に増えた外来種。アサリと同じようなところに生息し、現在では主要な海産物となっている